

8月8日オープンキャンパス
作業療法学科模擬講義

事例を通して学ぶ作業療法の魅力

講義の目標：作業療法の魅力を感じる

講義の内容： 1. 事例① みんなで園芸
2. 事例② 写真撮影が生きがいに
3. 作業療法の楽しさ

県立広島大学 作業療法学科
高木雅之

事例① みんなで園芸

1. 時期：2004年6月

（作業療法士1年目）

2. 場所：重度身体障害者の入所施設

3. 対象：入所者の人たち

4. きっかけ：

→ 介護を受けることが中心の生活

→ 自分が主体的に楽しめることは？

→ 一人の入所者の方が園芸を希望

→ 工夫すればみんなで楽しめそう

園芸をやってみよう！

- 参加者を募って園芸を開始
 - 希望者は5名
 - 一人一つのプランターでスタート



水やりができない！

Before



After



園芸をもっと楽しく！



写真撮影



料理



押し花

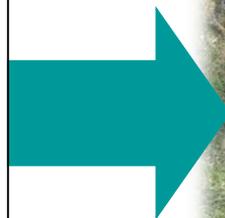
- 園芸が楽しみになった
- 他者へのアピールになった
- 他者から褒められる・
認められる

私も園芸したい！もっとやりたい！

- 参加者が5名から13名に増加
- 参加者が積極的に参加
「次はこれ育てたい」→プランタが5個から22個に
「花壇が作りたい！」



上司に相談
参加者との設計



花壇完成



2005年7月

自称「園芸部長」



OTが誘う→OTを誘う→ヘルパーを誘う
普段お金を使わない→外出時に花の苗を購入
「みんなが楽しみに待っとんじゃけ」
出来上がった枝豆をみんなにごちそう

孫と収穫

部屋にこもりがち→何度も中庭へ

「また見に来てしまった(笑)、これぐらいしか楽しみがない」

孫と収穫

「孫に青いのまで全部とられてしもうた(笑)」

「孫が喜ぶから来年も育てたい」



みんなで園芸

地域住民からの声かけ

「きれいに咲いたね」

「この肥料をやったら良く育つよ」

家族も参加

孫と収穫、家族が苗を持参

職員も参加

「時間を合わせて一緒にやろう！」

「高さのある花壇を作ったらどう？」



花壇完成

2007年10月



写真撮影が生きがい

- 60代前半、男性
- 10年ほど前に脳塞栓症発症
- 右片麻痺、失語、杖歩行
- 発症まで、大手企業で働き、一家の大黒柱
- 温厚で人望厚い
- 几帳面(完璧主義)で納得するまでやる
- 発症前はゴルフ、ソフトボール、ギター、旅行など多趣味でアクティブ
- 朝から夕方までリビングの机に座り、新聞の切り抜き、書字練習、テレビ鑑賞



切り抜き作業に一日の大半
10年近く継続
これまでに10箱以上



元気になれる作業は？

「ゴルフがしたい」



したい作業
好きだった作業
身体機能の向上になる作業

結果、
すぐに止める
全く楽しそうではない
その後も自分から
やろうとしない

写真を撮ってみよう！

あまり経験がない作業
自分で納得できる作業
外にでる機会になる作業
コミュニケーションの役に立つ作業



- OTのカメラを使って、孫や花を中心に据えて、自分でシャッターを切ることができた
- その場で現像すると「やったー」と笑顔で、孫にみせる
- 2週間後には自宅や世羅町で撮った写真を持参

写真の撮影・展示

四季折々の写真を大学や病院に展示



広報みはらに投稿

「病気をして初めて社会に出た」
「近所の人々が声をかけてくれる」



市民の広場

たのむけん！
◎石正正信さん ◎平成26年5月
◎三原運動公園（沼田東町釜山）



六月の三景園

◎網本和子さん ◎平成26年6月
◎三景園（本郷町善入寺）



花田福え
◎網田和子さん ◎平成26年6月
◎大和町大具



◎大原真美子さん ◎平成26年6月
◎三原駅前（城町一丁目）

◎撮影者 ◎撮影日 ◎撮影場所

写真を使ったカレンダー

毎年作成
家族や友人にプレゼント



作業療法の楽しさ

① 人生にインパクトを与えられる

過去の作業は「思い出」
今の作業は「生きがい」
将来の作業は「希望」

葉山靖明(一部改変)

② 一人一人違う

「創造力」・「交流力」を発揮できる

③ 社会をよりよくできる

「みんな違って、みんないい」社会をつくる仕事

作業療法の魅力が伝わる本



- 吉川ひろみ：作業療法の話をしよう。医学書院，2019（9月発売予定）
- 葉山靖明：だから、作業療法が大好きです。三輪書店，2012

作業療法の道に進んでみませんか

